

## 製品安全データシート

## 1. 製品・会社情報

製品名 : タケモルカチオンEV  
 会社名 : 竹林化学工業株式会社  
 住所 : 大阪府東大阪市渋川町3丁目1番43号  
 担当部門 : 品質管理部 (担当者 大江吉郎)  
 電話番号 : 06-6721-6165  
 FAX 番号 : 06-6720-7308  
 整理番号 :  
 作成 平成5年12月1日 改定 平成18年5月18日③

## 2. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区分 : 混合物

化学物質等の危険有害性成分

成分名	CAS No.	濃度又は範囲	安衛法情報	PRTR 情報	毒劇法情報
エチレン酢酸ビニル共重合体水性エマルジョン		% 1)	2)	3)	
			—	—	—

有害成分規定量含有せず。

注1) 数値に\*印を付したものは、製品グループにおける最大値。

注2) 労働安全衛生法第57条の2に関する施行令別表第9の通知対象物質に該当する「号の番号」

注3) PRTR 法施行令別表第一及び第二の通知対象物質に該当する「号の番号」

## 3. 危険有害性の要約

最重要・危険有害性 : 該当しない。

物理的及び化学的危険性 : 情報なし。

分類の名称 : 該当しない。

(分類基準は日本方式)

## 4. 応急措置

吸入した場合 : 蒸気、ガス等を大量に吸い込んだ場合には、直ちに空気の新鮮な場所に移し、暖かく安静にする。呼吸が不規則か、止まっている場合には人口呼吸を行う。嘔吐物は飲み込ませないようにする。直ちに医師の手当を受けること。  
 蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、医師の診断を受けること。

皮膚に付着した場合 : 付着物を布にて素早く拭き取る。大量の水及び石鹼又は皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い落とす。溶剤、シンナーは使用しないこと。外観に変化が見られたり、痛みがある場合には医師の診断を受けること。

目に入った場合 : 直ちに大量の清浄な流水で15分以上洗う。まぶたの裏まで完全に洗うこと。出来るだけ速く医師の診断を受けること。

飲み込んだ場合 : 誤って飲み込んだ場合には、安静にして直ちに医師の診断を受けること。嘔吐物は飲み込ませないこと。医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。

## 5. 火災時の措置

消火剤 : 水、泡、炭酸ガス、粉末、乾燥砂。

使ってはならない消火剤 : 情報なし。

火災時の特定危険有害性 : 情報なし。

特定の消火方法 : 可燃性のものを周囲から素早く取り除く。指定の消火剤を使用すること。高温にさらされる密閉容器は水を掛けて冷却する。消火活動は風上より行う。

消火を行う者の保護	: 消火作業では、適切な保護具（手袋、眼鏡、マスク等）を着用する。燃焼ガスには、一酸化炭素、窒素化合物等の有害ガスが含まれているので、消火作業の際には、適切な呼吸用保護具を着用し、煙の吸入を避ける。
<b>6. 漏出時の措置</b>	
人体に対する注意事項	: 作業には、必ず適切な保護具（手袋、眼鏡、マスク等）を着用する。多量の場合、関係者以外を安全な場所に退避させ、風上から作業する。必要に応じた換気を確保する。
環境に対する注意事項	: 漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。
除去方法	: 少量の場合、吸着剤（土・砂・ケソ等）で吸着させ取り除いた後、残りをウェス、雑巾等によく拭き取る。 大量の場合、密閉容器に回収し、安全な場所に移す。付着物、廃棄物などは、関係法規にもとづいて処置をすること。 水での洗浄なども、河川等への排出、環境汚染を引き起こす恐れもあり、注意する。
二次災害の防止策	: 付近の着火源となるものを速やかに取り除くと共に消火剤を準備する。床を濡れた状態で放置すると滑り易く、スリップ事故の原因となるため注意する。漏出物の上をむやみに歩かない。火花を発生しない安全な用具を使用する。回収物の収納容器は、内容物の処分を行うまで密閉しておく。
<b>7. 取扱い及び保管上の注意</b>	
取扱い	
技術的対策	: 取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。
注意事項	: 火気厳禁。
安全取扱い注意事項	: 作業場の換気を十分に行う。保護眼鏡、保護手袋等の適切な保護具を着用。取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。
保管	
適切な保管条件	: 火気注意。屋内の通気のよい場所で容器は密閉して保管する。 開封後の開放を避け、窒素シールをして密閉保管する。
安全な容器包装材料	: 製品使用の容器に準ずる。
<b>8. 暴露防止及び保護措置</b>	
設備対策	: 情報なし。
管理濃度	: 有害成分規定量含有せず。
許容濃度	日本産業衛生学会 : 有害成分規定量含有せず。
ACGIH	: 有害成分規定量含有せず。
保護具	
呼吸器用の保護具	: 情報なし。
手の保護	: 有機溶剤又は化学薬品が浸透しない材料の手袋を着用する。
眼の保護	: 取り扱いには保護メガネを着用すること。
皮膚及び身体の保護具	: 情報なし。
適切な衛生対策	: 取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。
<b>9. 物理的及び化学的性質</b>	
物理的状态	
形状	: 液体
色	: 乳白色。
臭い	: 僅かに酢酸ビニル臭。
pH	: 4.5~6.0

物理的状态が変化する特定の温度／温度範囲

沸点	: 情報なし。
融点 (流動点)	: 情報なし。
分解温度	: 情報なし。
引火点	: 情報なし。
発火点	: 情報なし。
爆発特性	
爆発限界 上限	: 情報なし。
爆発限界 下限	: 情報なし。
蒸気圧	: 情報なし。
密度	: 1.1
溶解性	
水溶解性	: 情報なし。
溶媒溶解性	: 情報なし。
その他のデータ	: 情報なし。

## 1 0. 安定性及び反応性

安定性	: 通常の温度、圧力の条件下では安定である。
反応性	: 普通の条件での反応性はない。
避けるべき条件	: 本品は 40℃以上に加温してはならない。 開封状態で放置してはならない。
避けるべき材料	: 情報なし。
危険有害な分解生成物	: このものは燃えないが、塗膜が燃えた場合、CO 等が発生する。
その他	: 情報なし。

## 1 1. 有害性情報

急性毒性	: 有害成分規定量含有せず。
局所効果 (皮膚、眼など)	
皮膚腐食性	: データなし
皮膚刺激性	: データなし
眼刺激性	: データなし
感作性	: データなし
慢性毒性・長期毒性	: データなし
がん原性	: データなし
IARC	: データなし
日本産業衛生学会	: データなし
変異原性	: データなし
催奇形性	: データなし
生殖毒性	: データなし
その他のデータ	: データなし

## 1 2. 環境影響情報

移動性	: データなし。
残留性／分解性	: データなし。
生体蓄積性	: データなし。
生態毒性	
水生生物毒性	: データなし。
その他のデータ	: 漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取り扱いに注意する。製品や洗浄水が、地面、川や排水溝に直接流れないように対処する。

## 1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物・汚染容器 : 廃塗料、容器等の廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理をする。容器、機器装置等を洗浄した排水等は、地面や排水溝へそのまま流さないこと。廃塗料、廃棄物等を焼却などにより発生した廃棄物についても、廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び関係する法規に従って処理を行うか、委託をすること。塗料製品、廃塗料及び焼却灰などが特別管理産業廃棄物に該当する場合、廃棄処理はこの法規に従う。

## 1 4. 輸送上の注意

国内法規制陸上輸送 : 消防法、労働安全衛生法、毒劇物取締法に該当する場合は、それぞれの該当法律に定められる運送方法に従うこと。

海上輸送 : 船舶安全法に定められている運送方法に従うこと。

航空輸送 : 航空法に定められている運送方法に従うこと。

国際法規制 : 航空輸送は IATA、および海上輸送は IMDG の規則に従うこと。

輸送の特定の安全対策及び条件 : 輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実にを行う。消防法危険物第 4 類第 2 石油類に該当するので、同法の規定に従った容器、積載方法により輸送する。船舶安全法に基づく危規則の引火性液体類に該当するので、海上輸送の場合には、同法に従って容器、標識およびその他必要な措置を講じて輸送する。

## 1 5. 適用法令

国内適用法

化審法 : 特定化学物質・監視化学物質に該当しない。

消防法 危険物 : 非危険物

安衛法 危険物 : 引火性のもの

表示 : 否

有機則 : 否

特化則 : 否

通知対象物質 : 否

毒物劇物取締法 : 否

船舶安全法 : 引火性液体に該当しない。

航空法 : 否

化学物質管理促進法 (PRTR 法) : 否

海洋汚染防止法 : 否

悪臭防止法 : 否

安衛法 : 否

## 1 6. その他の情報

## 引用文献

- 1) (社) 日本塗料工業会編「原材料物質データベース」
- 2) 溶剤ポケットブック
- 3) 危険防災救急便覧
- 4) 国際化学物質安全カード (ICSC)
- 5) 化学物質等法規制便覧

※ ここに記載した情報は、当社の最善の知見に基づくものですが、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。

ありません。全ての化学製品には未知の有害性がありうるため、取扱には細心の注意が必要です。使用前のテストを含め本品の適性に関する決定は使用者の責任において行ってください。